

# 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年9月28日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690102191
法人名	医療法人 萩風会
事業所名	グループホーム 花蓮
所在地	鹿児島県鹿児島市西谷山三丁目1番10号 (電話) 099-203-0567
自己評価作成日	令和5年8月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い公道に面し歩道も広い静かな場所に立地し、JRの駅(慈眼駅)も近い、学校や商業施設等もあり活気のある場所で買い物などの利便性も良い。  
ホームは3階建ての2階部分にあり、1階にはメンタルクリニックを併設、適宜専門的な相談も行える。  
母体は整形外科で徒歩数分程度のところにあり、変化時など随時相談できるため安心できる。  
入居者お一人お一人の生活スタイルやペースに合わせて待てる介護を心掛けています。  
職員は看護師が多く、日常の健康管理を含め変化時の対応が迅速に行えるよう、主治医との連携やご家族へ日ごろの様子を知って頂けるよう、適宜連絡を行い、入居者・ご家族が安心でき、笑顔のある健やかな暮らしが続けられるよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/">http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和5年9月20日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、同一建物内のメンタルクリニックや近くに母体医療機関等があり、事業所内には看護の有資格者が多数配置されて日常の健康管理にも取り組むなど医療に恵まれた環境である。また、かかりつけ医との24時間の医療連携体制が整っており、利用者・家族の意向に沿って看取り介護を含めた医療支援が行われている。
- ・新型コロナが5類に変更された現在も感染予防のため面会等の制限は継続しており、玄関先での面会や事業所からの近況報告送付等により家族との交流やつながりが途切れないように取り組んでいる。
- ・事務所内に設置されているモニターは日常の利用者の見守りだけでなくヒヤリハットの検証にも活用されており、職員は利用者がそれぞれのペースで安全に過ごせるよう取り組んでいる。
- ・管理者は、勤務時間の配慮等、個々の事情に応じた働きやすい就業環境づくりに取り組み、資格取得や研修受講を支援し質の向上を図っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	法人理念「一、家庭的な雰囲気」「二、地域とのふれあいを大切に」「三、一人ひとりの個性を尊重」を基本に、今年の事業所目標「毎日に笑いのある暮らしと健やかな生活」を提供できるよう努めています。	法人の理念を事業所の理念として、毎年理念に沿った事業所目標を決めてケアに当たっており、事業所目標を決める際にケアの振り返りも行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが、コロナ禍では町内会活動も少なかったことや、感染予防のため、地域交流は少なかった。	町内会に加入し地域の情報は広報や運営推進会議の際に把握しているが、地域行事への参加は控えている。感染予防のため、今後も行事参加については個々に検討する予定である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域への貢献活動は少なかったが、町内会長や民生委員との連絡は適宜行い、相談の際には対応できるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスも感染分類が5類となり、運営推進会議を開きホームの状況報告や地域の情報を得たり、意見や要望を聞けるようにしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を今年度は第1回から対面で実施し、事業所の報告と意見交換を行っている。地域の情報を得る機会でもあり、ヒヤリハット等に関する意見や要望を、事業所のサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	長寿あんしん相談センターの職員の方の運営推進会議への参加や、福祉事務所の生活保護担当の方など、情報提供や共有が出来る様にしている	支所の職員や生活保護担当者とともに情報交換や相談を行う等、日頃から連携を図っている。今年度は市の介護相談員を受け入れ予定であり、市の研修会はオンラインを含めて参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月のミーティングや定期的な委員会を開催し事業所内研修でも「身体拘束をしない介護」の学びを深めている	指針を作成しており、虐待防止と合わせた委員会を3ヶ月に1回、事例を用いた研修会を年4回実施している。不適切な言葉は、気付いた時に管理者から注意を促したり研修会でも取り上げている。日中は玄関の施錠はせず外に出たい利用者には職員が同行する等、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修・外部研修に参加・定期的な委員会を開催、不適切ケアがないか、職員間でも意見を言い合える関係を作り、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内研修を行い、活用できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際や制度改正時など、重要説明事項及び契約の内容を丁寧に説明、不明点などはその場で確認し納得できるよう説明を行っている、契約書等はそれぞれ2部作製し、同意の署名捺印を頂き、1部を交付している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議への参加で要望を聞いたり、定期的や必要時はご家族へメールや電話で連絡を行うなど、入居者・ご家族との良好な関係を構築できるよう務め、ご意見を頂けるようにしている</p>	<p>利用者には日々の会話で希望等を聞き、甘いものやアルコール等の嗜好品、副食の提供などに活かしている。家族には、面会時やメール等で気軽に要望等を出してもらえよう管理者から声掛けをしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティングに法人代表が出席し、問題があればすぐに解決できるよう努めている、月1回の法人全体の会議に参加、自由に意見を言える場を設けている</p>	<p>管理者は、日頃から職員が話しやすい雰囲気づくりに努めており、毎月のミーティング時はひとり一人の職員に発言の機会を設けている。個別相談は管理者が受けて対応し、個々の状況に応じた職場環境づくりに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>就業年数や資格などにより手当てを支給、職員の生活スタイルにより、就業時間も考慮している、事業所内の不具合などは即対応している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入職時研修を実施、研修報告などで本人の気付きを大事にしている、事業所内研修では、参加するだけの研修ではなく、担当制とし、課題を自分で調べ、学習した内容の発表の機会を作っている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加、地区の協議会でも連絡会メールで情報を共有、また同法人内のグループホーム間で研修内容などについても意見交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み後幾度か本人及びご家族と電話での連絡や面談の機会を持てるようにしている、また入院や施設へ入居されている方々については、医療面や介護面の情報も専門職より聞けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時など、本人を含めご家族の大変さも理解できるよう、聞く姿勢で接し、安心できるような声掛けに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やアセスメントを行う中で、本人・家族にとって何がより良いかを見極め、必要なサービスの提案ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできること、好むことを知り、一緒に掃除や片付けを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>サービス計画書に家族の役割を位置づけ、適度な距離感で家族も介護者としてかかわりを持ち続け、お互いに大切に思いあうことが出来る様にしている、感染症蔓延防止のため面会時間を制限しているが、短時間の面会や電話での対話ができるようにしている</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入居者間でも職員も参加し故郷の事や昔話を聞けるようにしている、電話の際には本人と話ができるようにしている</p>	<p>家族と玄関で対面の面会ができるようになり、電話や携帯と合わせて家族との交流を支援している。事業所からは写真を添付した近況報告を送付する等、家族との関係が途切れないように努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>本人が過ごしたい場所で居られるようにしている、ほとんどの方はホールで過ごしている、入居者同士が話しやすい雰囲気ができるよう職員も参加している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>事業所で看取りで退去とされたご家族様も「此処に来ると母(父)のことを思い出し、話ができる」と退去された後も思い出話にご家族が訪れてくださっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示が困難な方でも、ご家族からの聞き取りや本人の表情・言動などで、少しでも思いをくみ取れるようにしている、夜間帯の状態は夜勤者の申し送りなどで把握し、ミーティングやカンファレンスを開催し検討している	日常の会話のなかから本人の意向を把握するように努めている。意思表示が困難な場合は、家族からの情報を参考に本人の表情等から推測して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談や電話などで、生活状況など情報を収集し、介護保険サービス利用があれば、担当ケアマネジャーなどからも情報を得られるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察・記録の中の情報収集や申し送り、毎月のミーティングで情報を共有できるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで入居者全員の情報を共有、目標見直し時や変化時など担当者会議やカンファレンスを開催している	本人や家族の希望を聞き取り、毎月のミーティング時に出された職員の意見を入れて介護計画を作成している。3ヶ月に1回モニタリングを実施し、モニタリング結果で計画を修正している。1年毎及び必要時はカンファレンスを実施し見直しに繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤から夜勤、夜勤から日勤への切れ目のない申し送りや、個々のケース記録で情報を得る、必要時はカンファレンスを開催、伝達事項は申し送りノートで共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要な他科受診等、家族が支援困難な際には事業所に対応している、本人の状況にあわせ食事の時間や食事形態の変更、居室の様態替えなどを行い気分転換が図れるようにしている		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症も5類になったとはいえ、まだまだ感染対策は必要な状況である、事業所への立ち入りは時間を制限しているが、感染対策を徹底し、要望に応じ訪問マッサージなどを受け、気持ちよさや満足を得られるようにしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切に、受診の際には書面での情報提供を行っている、家族の要望により、在宅医の紹介なども行っている	かかりつけ医の希望を契約時に確認し、継続を支援している。受診は家族対応となるため、往診希望の場合は在宅療養支援診療所の紹介もしている。健康チェックは職員が実施し、緊急時を含め適切な医療を受けられるようかかりつけ医との24時間医療連携体制を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は看護師が多く、日々の健康観察を行い、定期往診時や変化時など主治医へ報告を行い適切に対応できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当日に入院先の病院へ連絡し、ホームでの生活状況など必要な情報提供を行っている、入院中もご家族や入院先の職員の方と適宜連絡を行い、情報収集等連携を図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に関する指針について説明し同意を得ている、状態変化時は、主治医・ご家族へ連絡を行い、感染対策を徹底し、短時間ではあるが適宜、面会ができるようにし、主治医の往診時来所頂き、主治医より説明を受けることで家族も安心できるようにしている	契約時に重度化等の場合の対応について指針で説明し、同意書をもっている。状況変化時に家族の意向を再確認し、家族の意向に沿って支援に取り組んでいる。看取り介護希望の場合は、かかりつけ医とのチームで支援し、コロナ禍でも看取り期の家族の居室面会・宿泊に対応している。看取り介護の事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時などを含め、対応方法など事業所内で研修を行い、職員全員が周知できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回消防訓練を含め、地震や災害時の訓練を行っている、消防機器点検も定期的に行い、緊急連絡網に沿って連絡体制も整えている、地区の町内会長や民生員等の協力も得られるよう、日々の関係づくりに努めている</p>	<p>年2回昼夜想定避難訓練を、コロナ禍のため消防署の立ち合いがなく自主訓練として、同一建物内の事業所合同で実施している。緊急連絡網に町内会長、民生委員が入る等、地域との協力体制を築いている。非常食は2日分の水・カップ麺・米・乾パン・ピラフ等の食料やカセットコンロを確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や人権擁護などの研修を事業所内で実施、日ごろから職員間でもお互いの言動が気になる時には注意しあえる関係作りを行い、急がない、待つ介護に努めている	研修を実施し、「自分がしてほしいくないことはしない、個々に合わせた言葉遣い」を基本に、羞恥心にも配慮して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に応じた言葉がけを心掛け、今したいことを尊重、食事の好みなどにも配慮した内容を取り入れている		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの過ごし方を優先、一人で居室で過ごしたい方は、適宜訪室し見守りを行う、レクレーションや洗濯物たたみなど、無理強いすることなく、出来る時・したいときに参加できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	朝夕、更衣の声掛けを行う、おしゃれに気を使う入居者と、その日の衣服を選んだり、ヘアスタイル等も好みに合わせている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アレルギーの有無や嗜好を聞き取り、入居者と食べたい食事のメニューを決めることもある、行事食など目でも楽しめるよう色合いも工夫、下膳やお膳拭きなど一緒に行っている	昼・夜の副食は母体医療機関からの配食を受け、適切な食事形態で提供し、利用者も一緒にお盆拭きをしている。一部の行事食や誕生日のケーキ、おやつ、利用者の希望等で1品加える等、工夫して取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定・毎食の食事量をチェック、昼・夕食は栄養士の献立で調理したものを提供、10時・15時、入浴前後の水分補給及び、夜勤帯でも就寝前や早朝に水分を提供している		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアの物品準備をし促し、自分で困難な方は職員が介助を行っている、必要に応じ訪問歯科診療を受け、口腔ケアの指導なども受けられるようにしている		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	失禁の少ない方は、昼間だけでもトイレで排泄できるよう、布のパンツで過ごしていただき、声掛けやトイレ誘導を行っている、本人の能力を見極め手すりなどを使用することで動作が自立できるようにしている	個々の排泄パターンを把握し、利用者の様子に合わせて声掛けや誘導を行って、日中はトイレでの排泄を基本に支援しており、パット等は使用せず布パンツのみ使用している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は消化の良いものを、野菜などが多く摂れるよう工夫している、水分補給や運動も心がけ、便秘傾向にある方は主治医へ相談している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2～3回の入浴を計画している、入浴日には声掛けを行い、本人のタイミングで入浴できるようにしている、今は入りたくないという方でも、時間をずらすなどして入浴、特に冬場は入浴剤等を入れ「気持ちよかったー」と満足を得られている	週3回午前中の中の入浴を支援しており、夏はシャワー浴が多い。安全に配慮して必要時には2人介助で対応している。入浴剤やゆず湯でゆっくり入浴を楽しんでもらえるように取り組み、嫌がる場合は、時間を変えたりタイミングを見て声掛けしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じ就寝できるようにしている、消灯になっても眠れない方は、ホールで職員と一緒に対話などし安心できるようにしている		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師居宅療養管理指導を受け、薬の効能や副作用なども聞くことが出来ている、処方薬は個々に分かりやすく飲みやすく分包している		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室で自分の好きなように時間を過ごしたい方、乾いた洗濯ものを几帳面にたためる方、縫物をする方、居室の掃除をすることで職員に感謝され、喜びを感じる方などさまざまであるが、本人の役割につながるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナウイルス等感染予防のため、外出はほとんど行っていないが、同建物の3階のベランダから見える景色を眺めたりしている</p>	<p>コロナ禍のため外出は控えているが、1階の入口付近や3階のベランダに出て外気浴や景色を眺める等で気分転換を図っている。窓から入る風や光で皮膚にあたる感覚を楽しんでもらっている。外出の希望を聞き、外気浴の声掛けに努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を所持している方はほとんどいないが、掃除や入浴支援を行ったとき、「いくらですか」と、お礼を支払いたい方に、大切に使いましょう等の声掛けを行っている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族からの電話の取次ぎや、携帯電話を所持している方へは充電や、電話がかかってきたときの応答などの支援を行い、家族へ手紙を出したいという方に、住所などを書く支援をお行っている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の掃除などで清潔が保てるようにしている、事業所内にオゾン発生器を2台設置している、ひな祭りや七夕、クリスマスやお正月など、入居の方々と作成した作品の飾りつけなどを行っている、感染対策のため窓を開け換気を行い、アルコール消毒を実施している</p>	<p>リビングは清潔で明るく、エアコンで適度な室内環境に調節され、オゾン発生器も置かれている。窓を開けて換気を十分に行い、感染対策に取り組んでいる。室内でも季節を感じられるように手作りの季節の作品が飾られている。利用者は自席やソファ・居室などの好みの場所で思い思いにくつろいでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ほぼ決まった席でお互いが馴染となり、馴染の相手が傍に居ることで、安心できるようにしている</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には本人が大事にしていたものや写真など、家族の協力で持参していただいている、ベッドや家具も本人の身体状況に応じた配置としている</p>	<p>居室にはベッドやタンス・椅子・エアコンが備えてあり、本人はテレビや小物入れ・テーブル・仏壇などの家具を持ち込んだり、写真やぬいぐるみ等を身近に置き安心して過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室の入り口には本人、家族の了解を得て名前を書き、自分の居室と分かるようにしている、自分の居室と分からず混乱する時は必要に応じ誘導や、目印になるような飾りも付けをしている</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない